

# 内部川水系における特定外来生物「アレチウリ」の防除

## 1、活動の目的と経緯

近年、外来生物の移入分布が全国的にも注目され、生物多様性面からも問題視されています。中でも環境省が外来生物法で規制する特定外来生物のアレチウリ（ウリ科）は、非常に繁殖力が旺盛でほぼ全国に分布し、河川敷をはじめ荒地で猛烈に拡大しています。特に河川敷では、希少野生生物の減少や絶滅を引き起こすなど、生物多様性の喪失にも繋がっています。また、アレチウリの繁茂で枯死した樹や草・竹は川のゴミとなり海へ流れています。このため内部地区では「伊勢湾の豊かな水資源を100年後に繋げる」ことを目的に「アレチウリの駆除」を行なっています。この活動は“海”をきれいにする『地域の大切な環境活動』です。

三重県北勢地域でのアレチウリは、1999年8月に内部川（一級河川）の河川敷で見つかったのが最初と考えられます。このため、2007年に内部地区「社会福祉協議会」や「自治会」が主体となり、県下で初めて「アレチウリ駆除作戦」がスタートしました。

## 2、活動内容と実績

### ① 活動の成果とその背景

ア) 内部地区は環境意識が高く、家庭の生ゴミ堆肥化、

廃てんぷら油の再資源化、内部川清掃、ビオトープ、ホタルの保存会、市民緑地などの環境活動が活発です。中でも「内部川清掃」は35年の歴史があり、毎年、地域住民約1200～1300名が参加されます。この活動は子どもの提案がきっかけで1982年に始まり、今日では次世代へも受け継がれています。そして、2007年にはアレチウリ駆除が新たな環境活動として加わり、本年で11年目となります。

イ) アレチウリの駆除を継続してきたことにより、個体数は激減しました(右表)。

ウ) アレチウリを地域主導で駆除する事例は三重県下では殆どなく、全国的にも長野県（信濃川・千曲川等）が行政主導でスタートした例が知られています。内部地区では河川の生態系保全が「先進的」な取組みとして評価されています。

エ) 地域住民や中学校、行政（国・県・市）、企業、そして、環境分野の有識者（四日市大学研究会）が協働で環境活動を行なっていることは大変意義深いことです。

### ② 河川の生態系や伊勢湾の環境

アレチウリ駆除を実施したことにより、希少植物のクサソテツの繁殖をはじめ、ヨシ原の拡大、ヨシキリやニホンキジなどの野鳥、ハヤ類などの魚類が多く見られるようになりました。

2015年12月には食物連鎖の頂点にある猛禽類（チョウケンボウ）が発見され、過去に話題になったオオタカ以来のことです。また、鈴鹿川河口部の海岸では、2014年7月にアカウミガメの産卵が“四日市ウミガメ保存会”で確認されるなど、かっての伊勢湾に蘇りつつあります。

## 3、今後にむけて

①アレチウリ根絶に向けた活動の継続



年度別「アレチウリ」推移

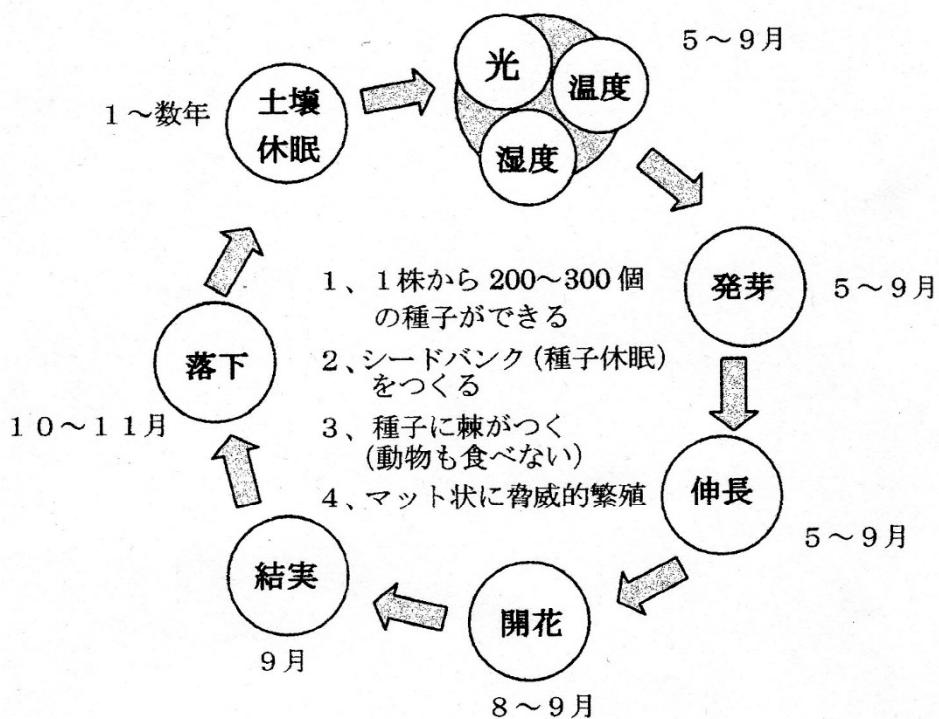
回	年 度	参加数	駆除数	備考
1	2007	300		3エリア
2	2008	300	∞	3エリア
3	2009	340	80000	4エリア
4	2010	340	60000	4エリア
5	2011	260	50000	4エリア
6	2012	270	10000	3エリア
7	2013	210	3000	3エリア
8	2014	70	5000	4エリア
9	2015	130	6500	4エリア
10	2016	260	6900	4エリア

※2014年以降は足見川堤防の1エリアを追加

②内部川全流域でのアレチウリ駆除活動の拡大

2017.6.2 (保黒時男)

## <参考・1> 「アレチウリ」の生活史



## <参考・2> 「アレチウリ」駆除までのプロセス

